



THE JAPANESE SCHOOL in LONDON

ロンドン日本人学校だより 1

学校教育目標

自ら学び、心豊かにたくましく国際
社会を生きぬく児童生徒の育成

合い言葉：自立・貢献

2020(令和2)年
月8日発行 ロンドン日本人学校
令和元年度 第9号

オリンピック,そして変化と挑戦の1年へ … 3学期始業式辞より

新しい年を迎えました。今日は、学校にとって3学期の始まりであり、社会では1年間の始まりでもあります。それと同時に、あと48日間学校に通うともう修了式となって、今の学年が終わる、学校としては締めくくりのときでもあります。

皆さんは、今年は「どんなことがある年」か知っていますか。今年、2020年は、4年に1度開かれるスポーツの祭典、オリンピック、パラリンピックが、日本の東京で開催される年です。このうち、オリンピックは7月24日から17日間で205の国や地域が参加し、33競技・339もの種目が競われます。このオリンピックを開催するために、「聖火」が用意されます。聖火は、3月12日に、ギリシャのオリンピアにある神殿から受け渡されます。そこからはるばる日本まで航空機で運ばれ、9年前の3月、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県・岩手県・福島県で展示されたのち、「聖火リレー」として121日間をかけて日本の全ての都道府県を巡り、7月の東京の開会式で点火される予定です。

ところで、オリンピックが東京で開催されるのは何回目でしょうか。正解は2回目です。今から56年前の1964年(昭和39年)、アジアで初めてのオリンピックとして開催されたのが1回目の東京オリンピックで、今回は2回目となります。しかし実はもう1回、80年前の1940年(昭和15年)にも開催が予定され、準備が進められていた東京オリンピックがありました。しかし、その東京オリンピックは、当時日本が中国大陸で行った戦争を主な理由として中止されたのです。そのような歴史を知ると、オリンピックが「平和の祭典」と呼ばれる理由にもうなずけるように思います。2020年の東京オリンピック・パラリンピックが、平和を維持する努力を怠らない国々の力によって開催され、東日本大震災のような巨大な自然災害を乗り越えた日本で成功させられることを心から願うとともに、205の国や地域から集

まった選手たちが力を尽くして競い合う試合を、私はここ英国から応援したいと思っています。

さて皆さん自身は、今年を「どのような年」にしたいと思っていますか。初めにお話ししたように、今の皆さんが所属している学年はあと数か月で終わり、4月からは新たな学年でスタートします。特に小学部6年生の皆さんは中学生に、中学部3年生の皆さんは日本の義務教育を終えて高校生へと大きな変化があるでしょう。ここにいる皆さんの中にも、日本をはじめ様々な国から転校という大きな変化を経験してきた人、或いは、この先、このロンドン日本人学校を後にするという大きな変化のある人もいるかもしれません。そのような1年を見通して「このような年にしたい」と目標を立てることは、とても意味があることだと私は思っています。それは、大きな変化の中でも目標があれば変化に流されることなく挑戦につながられ、挑戦は自分自身の成長につながるからです。言い換えれば、変化はチャンスでもあるということです。

先ほどお話しした2020年東京オリンピックで掲げられた、目標にあたるものの一つに、「全員が自己ベスト」というのがありました。オリンピックには多くの選手が参加しますが、注目の集まりやすいメダルを手にすることができるのは、ほんの一部の選手です。しかし、メダルに届かないまでも、このオリンピックに向けて厳しい練習を重ねてきた選手が大会の本番で自己ベストを出すことができれば、間違いなく達成感を味わうことができるでしょう。そのような自己ベストがたくさん出る大会は、素晴らしいものになると思います。私もこれを真似て、「今年は〇〇の自己ベスト」「自分史上最高の〇〇」を考えています。皆さんもどうでしょうか。

皆さんのこの1年が、変化を乗り越え、挑戦を通じて力をつける1年となるよう、ロンドン日本人学校は皆さんを応援していきます。

フレンチ校での素敵な出会い

小学部6年生は、11月22日(金)に、フレンチ校を訪問しました。初めは、緊張していた子どもたちもバスケットボールや卓球などをして一緒に遊ぶことで、少しずつ緊張が解けていきました。

その後、「Geography and theatre」、「Craft」、「Eiffel Tower」、「Notre Dame」のクラスに分かれて授業を受けました。日本とフランスのスポーツ選手、偉人になりきって英語や日本語、フランス語で会話をするクラス、エッフェル塔の歴史などを聞いた後、線をつないでエッフェル塔を描くクラスなど、子どもたちは、それぞれのクラスで授業を楽しみました。

最後には感謝の気持ちを込めて「オー・シャンゼリゼ」の歌を歌い、絵手紙と折り紙のプレゼントを渡しました。フレンチ校のみんなが手拍子や



振り付けを一緒にしてくれている姿に、子どもたちはとても喜んでいました。「オー・シャンゼリゼ」の歌詞にもでてくる「素敵な出会い」がいっぱいの1日となりました。

紋切りやひらがなで日本の文化を伝えました



中学1年生は11月22日(金)に、以前訪問したクレアモント校の生徒達41名を迎えて交流しました。当日は、折り紙を折って美しい紋を切り抜く「紋切り」やひらがなの読み方や書き方、それを使った手作りかるたを使ったかるた取り遊びなどを、クレアモント校の友達と楽しみました。交流を進めるに当たって、実行委員や各活動の係を決めて、自分たちでどんな説明をするか、英語ではどう伝えたら良いか考えて準備をしました。班の活動で使う英語の表現は、友達同士で教え合ったり、外国語の先生にアドバイスをもらったりしました。

実際交流が始まると、お弁当の時間や休み時間も一緒に過ごすうちに、ペアの友達と随分打ち解けて、仲良くなっていきました。前回訪問したときよりもたくさん英語で話せたと感じている生徒が多かったです。さらに「話がもっと膨らむように表現を学びたい。」「聞きたいことなどの表現を覚えたい。」「語彙を増やしたい。」「などの感想から、目標を高くもって学んでいこうとする姿が素晴らしいと思いました。

どきどきわくわく現地校訪問

小学部1年生は、12月6日(金)にWest Acton Primary Schoolへ現地校交流に行きました。現地校を訪問するのは初めての体験です。子どもたちは少し緊張した様子でした。到着してはじめての会を行ったあとに、3つのグループに分かれて各教室に入りました。各教室で行った活動は『スノーマン』のカード作りです。各クラスの担任の先生が説明をされた後に、台紙に紙を切って貼ったり、ペンや色鉛筆で模様を描いたりして作成しました。ウエストアクトンの友達に進んで話しかけるという姿はなかなか見られませんでした。が、はさみやのりなどの道具を貸してもらったり、できた作品を見せ合ったりして交流している様子が見られました。自分だけの『スノーマン』が完成してとても嬉しそうにしていました。学校に帰ってきてからの振り返りでは「もっと話がかかった。」「次にウエストアクトンの友達が来たときには、たくさんおしゃべりして、一緒に遊びたい。」と発



表していました。今度は2月に、ウエストアクトンの子どもたちをロンドン日本人学校に迎えます。英語やジェスチャーを使ってもっとやりとりができるように、準備していきます。

中学部3年生の福祉施設訪問

福祉施設『Michael Flanders』を訪問しました。年末のこの時期、施設内には所々クリスマスの飾り付けも

始まっていました。今回の訪問のために、中3生は実行委員を中心に披露



する演目を考え、毎日のように練習を重ねてきました。その甲斐あって、どの発表も大きな拍手をいただきました。まずはA組とB組がそれぞれクラスで準備してきた出し物の披露。リフティング、ハンドベルの演奏、大縄跳び、ソーラン節、アカペラ合唱、組体操は、それぞれハプニングもあったものの、施設の皆さんの温かい雰囲気にも助けられ、何とか無事に終了しました。そして最後は生徒全員による『威風堂々』の演奏。ピアノとハミングで静かに始まった演奏は、途中からパーカッションやリコーダーも加わり、大迫力の演奏になりました。聞いている皆さんも手を叩いたり一緒に歌ったりと、いろいろな形で加わってくれて、最後にはひととき大きな拍手をいただきました。中3生が学年全員で参加するロン日最後の行事は、雲ひとつない、うららかな夕空の下、エルガーのメロディとともに幕を閉じました。